

「最近の若手が何を考えているか分からない」と思っているあなたへ

「どうやって上の人を巻き込んだらいいか分からない」と思っているあなたへ

企業・大学・官庁の若手が描く 未来のたたき台

2020年4月17日

経済産業省・官民若手イノベーション論ELPIS

このレポートは、未来に向けたアクションを生み出していくための若手なりの「たたき台」です。

平成は「失われた30年」と言われてきました。そして令和を迎えた今も抜け出せる目処は立っていません。

また、世界に目を向ければ、先進国の停滞、格差拡大、感染症という新たな脅威など、これまでにない混沌を極めています。

“変化が必要なのは分かるが、具体的に物事を変えられない・・・”

いまの日本にはそんな「閉塞感」が漂っています。

ただ、どんな時代にも閉塞感を打ち破ってきた「若手」がいました。

彼らは常に世の中にアンテナを張って、いつも時代の価値観を変える技術やアクションを生み出してきました。

しかし、若手だけでは解決が難しいほど今の社会の問題は巨大で複雑です。

若手の発想力と実行力、ベテランの知恵・経験・リソースが必要です。

Made by（誰がつくるか）の時代は終わり、これからは Made with（誰とつくるか）の時代になります。

誰か1人じゃない、未来づくりはチーム戦、**“全世代型イノベーション”**です。

“各世代の強みを活かして、「未来」を議論し、創りたい”

そんな想いを込めて、このたたき台を作成しました。

Chapter

01

これからの 未来のつくり方



これからの未来のつくり方 = 全世代型イノベーション



ベテランと若手、各世代の強みを活かして、未来を議論し、創っていく。
それこそが“全世代型イノベーション”である。



ベテラン

長年の経験に基づく知恵、
そして、動かせるリソースや権限を持つ。



若手

未来の当事者。
まずやってみる機敏性・発想力・実行力を持つ。

全世代型イノベーションに向けて

- | | | | | | |
|---|--|---|--|---|--|
| ① | ベテランの皆様へ
「最近の若手が
何を考えているか分からない」
と思いませんか？ | × | 若手の皆様へ
「自分の考えが
上司の理解を得られない」
と思いませんか？ | ➡ | 言葉の裏の“価値観”がすり
合っていないかもしれません。
本書を持って、
ぜひ話し合ってみてください。 |
| ② | ベテランの皆様へ
「若手の考えをどうやって
取り入れたらいいのか分からない」
と思いませんか？ | × | 若手の皆様へ
「どうやって上の人を
巻き込んだらいいのか分からない」
と思いませんか？ | ➡ | 価値観のギャップを価値に。
ELPISと一緒に、取り込み方
を考えてみませんか？ |

いまの“若手”の想い

未来を生きる若手“研究者” と共に新しい社会のあり方を

これからを生きる当事者の
若手の参画が大事。
イノベーションを生みだしていく層。
上の世代と一緒に創っていきたい。

団塊と踏み出す 令和のゆとりある第一歩

人口減少に向き合う日本では、
全世代によるイノベーションが必要。
若手に押しつけるのではなく
シニア世代の活躍も大事。
イノベーションにはゆとりが大事。

若者に任せてください

大きな組織の世代別人数比は
ワイングラス型。
意思決定プロセスが変わらない限り、
大きな組織は変わらない。

若者の意見を汲んだはずの 政策がなぜズレているのか

「ヒアリングは若手にもしている。」
でも聞いて終わっていないか？
若者の声を反映させながら政策を
創っていくにはどうしたらいいか？

令和5年、若者省を新設へ

UAEやインドには若者省が存在する。
若者の声が届く場所があることは大事。

なぜ今、“若手”が必要なのか？

今の20代・30代は、30年後（2050年）に50代・60代となる世代。彼らは、「これから」の未来を生きる当事者である。



「失われた30年」の中で生まれ育ち、世界的にも「ミレニアル世代」、「Z世代」と呼ばれる世代。上の世代と若者には、育った環境の変化による価値観の違いが見て取れる。

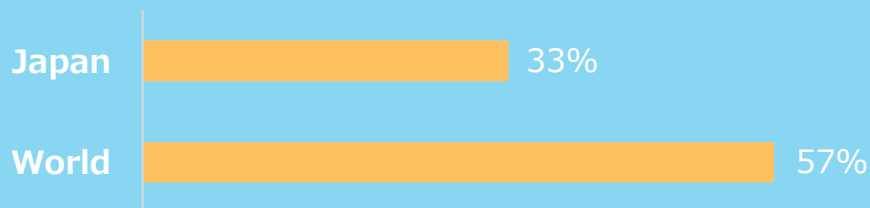


若手にまつわる背景

人口減少、気候変動、パンデミック... 目の前には課題が山積し、「下っ端だから関係ない」では済まされない。若手も現在の社会にプロとして向き合い、課題解決に取り組んでいる。

イノベーションは「よそ者、ばか者、若者」が起こすともいわれる。若者が加わることで、新しい風を議論に吹き込みたい。

日本の34歳以下は人口の33%だが、世界全体では約2倍の57%*にも達する。若者同士のグローバルネットワークを活用すべき。



*Populationpyramid.netの2017年統計より



半年かけて、若手100人で30年後の未来を議論

官民若手イノベーション論ELPIS とは

成り立ち

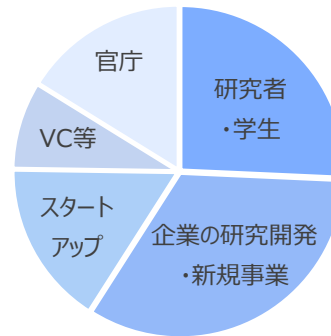
経済産業省研究開発・イノベーション小委員会の委員の
「『失われた30年』の中で生まれ育った平成生まれの若者は、上の世代と違う
価値観を持っているのではないか」
という発言をきっかけに、若手が集まり、未来の社会について議論する場として発足。

ビジョン

Vision イノベーションで未来を創る
Mission 組織を超えた産学官の若手によるプラットフォームをつくります
Output ①イノベーションの現場にいる若手による提言（本書）
②オープンイノベーションの取組として、政策やビジネスにつなげる

参加者

20～30代のイノベーションに関わる若手が、大学・
企業・スタートアップ・ベンチャーキャピタル（VC）・
官庁などから集まる。
参加人数は、延べ168名、実数105名。



活動内容

2019年10月から半年かけて、計5回のディスカッションを実施。
テーマ：①若手が描く2050の未来
②未来に向けた価値観
③価値観を反映した政策・ビジネス案





Chapter 02

未来に向けた 5つの価値変化

未来に向けた5つの価値変化 – サマリー –

2050年の未来像をディスカッションする中で、未来に向けた5つの価値変化が見えてきた。
「①変化する価値観の詳細」と、「②変化前後の価値観を組み合わせることによって生まれる事例」を紹介する。



個人

①コミュニティのあり方
フォルダ型 ▶ ハッシュタグ型

②マインドセットのあり方
取得・所有 ▶ 貢献・共有



事業

③研究のあり方
真理探究志向 ▶ 社会変化まで

④ビジネスのあり方
機能性 ▶ ストーリー性



社会

⑤社会のあり方
経済大国 ▶ 持続可能な社会

1. コミュニティのあり方：フォルダ型▶ハッシュタグ型へ

組織を超えて、プロジェクトベースで個人が未来社会を創っていく。

従来は、「株式会社XX YY部ZZ課の〇〇」といった、フォルダの階層のように自分のポジションが決まっていたが、これからは自分の想いやスキルに基づき、SNSのハッシュタグのように組織を超えて様々なプロジェクトに参加することが主流となる。「組織」ではなく、「個人」が社会を動かす時代になる。

フォルダ型（所属組織の肩書）



個人と会社は強く紐づいていた、名刺交換が基本の社会。組織の肩書をベースにした帰属意識。「XX社の〇〇さん」というのが当たり前。大企業の代表が業界・社会のニーズを把握し、政策も組織同士のコミュニケーションで形成してきた。

ハッシュタグ型（プロジェクトベース）



個人の想いに基づいて組織を飛び越えながら、SNSのハッシュタグ（#）のようにプロジェクト・自分の関心ベースでの帰属意識が生まれる。「XXプロジェクトやってる〇〇さんですね！」というコミュニケーションが当たり前。個人やその集合体であるコミュニティをベースにした政策がワークしていく社会になる。



林志洋

ハッシュタグ型の生き方では、組織内の役割に囚われず、気軽に#タグを付け足すつもりで新たな挑戦ができると感じます。並行するプロジェクト同士がふと繋がり、大きな構想が湧いてくる体験は、「あるべき姿」に固執しがちなフォルダ型にはない楽しさがあります。

#まちづくり #地方創生 #アクセラレーター #複業 #GlobalShapers
#ダボス会議



千野 歩

大企業での研究開発とは別に、企業を超えたメンバーで自分の想いを実現するためのプロジェクトを進めています。どちらの型も有していることで、プロジェクトの出口戦略に幅を持たせることができています。

#複業 #エンジニア #SensinGoodLab #S-Booster
#視覚障害者の単独歩行「あしらせ」

1. コミュニティのあり方：フォルダ型▶ハッシュタグ型へ

事例

“フォルダ型組織×ハッシュタグ型個人”が活躍するために。



Ring (リクルート) Game Changer Catapult (Panasonic)

ともに、企業内の新規事業立案のための制度。
既存の事業領域にとどまらず、個人の想いや情熱をビジネスのタネとして育成をする環境を整えている。アジャイル的にスピード感を持って進めることが是とされる。

(参考) Ring <https://ring.recruit.co.jp/>

(参考) Game Changer Catapult <https://gccatapult.panasonic.com/>



アメリカ政府機関・The U.S. Digital Serviceの取組

GAFa等のトップエンジニアや研究者を期間限定で政府に派遣。官のシステムを向上させるとともに、その派遣が終わり民間に戻ったら政府との連携をスムーズに行える関係を培う。まさに、政府という大きなフォルダ型の組織と、プロジェクトベースで動くエンジニアが互いにコラボレーションしている事例。また、エンジニアは、#Governmentという新しいハッシュタグを得ることになる。

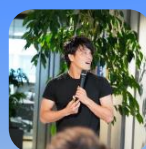
(参考) The U.S. Digital Service <https://www.usds.gov/>



田村 洋人

“Work as Life”として、生涯学び続けることを前提に自身の社会への関わり方を模索すると、必然的にハッシュタグ型に収束すると思います。ELPISもその一環で、所属組織内外を問わず、学び、貢献できる場を求めています。

#研究開発マネジメント #技術戦略 #機械設計 #材料開発



濱本 隆太

今は社外の若手有志活動やふるさと兼業などで自らのハッシュタグを増やし、所属企業での活躍の場を獲得することが増えています。今後は更に社内社外という枠に捉われず、プロジェクト毎に色々な方と働く機会が増えていきます。

#HomeX #社内起業家 #ビジネスデザイン #クリエイティブディレクター
#越境コミュニティ

2. マインドセットのあり方：取得・所有 ▶ 貢献・共有へ

個人にとどめず、貢献・共有することが未来社会を創っていく。

従来は、取得・所有することに価値があり、まず所有した上で何を提供するかという順番だったが、これからはモノも情報もまず共有することで、誰でも選び、活動し、貢献することが主流となる。AIやロボットの技術代替で余暇が生まれ、個々人がやりたいこと・好きなことで自由に活躍できる社会が変わっていく。「取得・所有」ではなく、「貢献・共有」によって社会を動かす時代になる。

取得・所有



モノを取得・所有することに「幸せ」像があった。

- モノ：マイカー、マイホーム
- 活動：就社、終身雇用
- 知識：知的財産の保有、受験特化型の詰め込み教育

貢献・共有



帰属意識や社会貢献など価値を基にした「幸せ」像へ。

- モノ：シェアリングエコノミー、寄付
- 活動：ボランティア、兼業・副業
- 知識：オープンソース化、体験型・PBL型の能動的な教育



田中 克明

普段の宇宙開発で得た知識や技術をVR等のICT技術を利用して一般の方々に宇宙体験として届ける活動をしています。今後はこれらの体験価値の創造のノウハウを地方創生や科学技術振興の課題解決に役立てていきます。
#宇宙ビジネス #ロボット #xR #AI #モビリティ #起業家 #PhD
#大学研究員 #エンターテインメント



五十嵐 美樹

私は現在、プロジェクトベースで科学を表現するお仕事をしています。会社員という環境から離れてこのような選択をすることは私にとっては自然なことだったのですが、今後も多様な視点からそのマインドの在り方について考え続けていきたいと思っています。
#STEAM #リケジョ #サイエンスコミュニケーション #科学技術と社会

2. マインドセットのあり方：取得・所有 ▶ 貢献・共有へ

事例

“取得・所有×貢献・共有”、社会のために自分のスキルを生かす・試す

東京都 新型コロナウイルス感染症対策サイト



東京都が解説した新型コロナウイルス関連の情報を集約したサイト。オープンソースの活用と、Githubを通じて誰もが所有するコーディングスキルを使ってサイトのアップデートに貢献できるという特徴を合わせつ。東京都のものをベースに各地域版も複数誕生しており、まさにスキル・ノウハウの共有がスピード感を持って拡散している。

(参考) 東京都新型コロナウイルス感染症対策サイト
<https://stopcovid19.metro.tokyo.lg.jp/>

よこらぼ (埼玉県横瀬町)



「よこらぼ」は埼玉県横瀬町が提供する“まちづくりの実践や実証試験などができるチャレンジのフィールド”である。個人や企業が所有する技術やアイデアの実践を通じて、横瀬町が抱える課題解決に貢献しながら、新しいスキルや経験・実証結果を得ることができる。取得・所有と貢献・共有がうまく循環している事例である。

(参考) よこらぼ <https://yokolab.jp/>



池田 宗太郎

なりたい自分とか、自分らしさとか、ずっとあやふやで生きています。モノやカネで自分を語るなんてできなくて、だからこそ、名前でも肩書でもなく、自分ならではの生きた痕跡を、この社会に残していきたい。

#生命科学 #基礎研究 #ブラック研究室 #博士とりたい #科学技術政策



周 静芳

本業は量子情報の研究しています。最近は自作ツールを作ったりもしていて、インターネットを用いて俯瞰的に検索する際(例：先行事例調査)の補助となり、結果の共有や共同検索を容易にするツールを開発しました。

#物理 #量子情報 #未踏 #博士課程 #プロトタイピング
#ディープラーニング #俯瞰検索ツール

3. 研究のあり方：真理探究志向 ▶ 社会変化までの研究へ



社会との接点を持った研究が未来社会を創っていく。

従来は、研究と社会の接点が少なく、人・予算・知識が研究者のまわりで留まりがちであったが、これからは研究者が社会課題解決に携わる企業や機関と交流して知識をオープンにしていき、企業や大学の人材・資金が循環することが当たり前となる。「真理探究志向の研究」だけではなく、「社会変化までの研究」を組み合わせることで社会を創る時代になる。

真理探究志向の研究



研究室と社会の距離が遠かった。研究者同士の密なネットワークによって、遠い未来に資する真理の探究が進んできた。

- アウトプット：論文等による評価
- 予算：行政予算を主とし、削られる傾向
- 研究者：研究者以外との接点が少ない
- 社会の認知：難しそう、よく分からない

社会変化までの研究



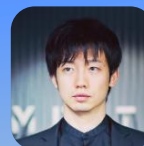
研究室と社会の距離が近づく。社会も巻き込み、長期的に真理の探究を社会課題解決にもつなげていく。

- アウトプット：論文等に留まらず、スピンオフなど社会実装も評価
- 予算：行政予算に加え、企業や民間からも資金提供
- 研究者：大学、企業、行政など他分野の人たちとも交流
- 社会の認知：科学の研究は未来を創る土台



水口 佳紀

バイオベンチャーを創業し、大学や企業、行政、病院等と連携しながら研究開発を行い、得られた成果を社会に実装し新しい価値を提供。同時に市場から資金を集めることにより、持続可能な研究と社会実装に取り組んでいます。
#腸内細菌 #生命工学 #研究開発 #社会実装 #ベンチャー #創業者 #PhD #リーディング大学院



粕谷 昌宏

サイボーグ技術の実現は、全人類の生活を一変させる技術的特異点となります。そのため、技術開発以外にも規制や法整備、倫理面での検討が必要であり、研究者以外のプレイヤーとも密に連携し、技術開発を超えて「未来をデザインする」ことに取り組んでいます。
#サイボーグ社会 #アバターロボット #人類の可能性の最大化 #研究開発 #ベンチャー #起業家 #PhD

3. 研究のあり方：真理探究志向 ▶ 社会変化までの研究へ



事例

“真理探究志向×社会変化まで”の研究で真理の探究と課題解決の両立を。



academist

リアルテックファンド／academist

リアルテックファンドは、地球や人類の課題解決に資する研究開発型の革新的テクノロジー（ロボティクス、エレクトロニクス、バイオ、アグリ、環境・エネルギー、新素材、航空宇宙、医療・医療機器、AI、IoT等）の社会実装を実現する研究開発特化型VCファンド。支援先には、株式会社未来機械やAMI株式会社など地域発・大学発リアルテックベンチャーが多数。academistは、日本で初めての研究費獲得に特化したクラウドファンディング・プラットフォーム。社会との結びつきによる資金提供や市民も1プレーヤーとして科学に参画・楽しむことができる仕組みを実現。

(参考) リアルテックファンド <https://www.realtech.fund/>

(参考) academist <https://academist-cf.com/>

HONGO AI

HONGO AIは、AIスタートアップと本郷近辺の活性化を目指し、特にアーリーステージの優良なAIスタートアップに光を当てることを目的に2019年結成。2019年コンテストには、先端人工知能であらゆる機械の自動化に取り組む株式会社DeepXなどが出場。最優秀賞は、マテリアルズ・インフォマティクスに取り組むMI-6株式会社が受賞。DeepX社は、働き手不足などの社会課題解決のため、東京大学博士課程所属学生が起業。MI-6社は材料開発に革新と効率をもたらすことをミッションとしている。

(参考) HONGO AI <https://hongo.ai/>



加藤 郁佳

研究所で脳における神経回路の計算特性とドーパミンの役割を知るために基礎研究を行いつつ、企業のデータを用いた論文執筆や、多くの人に開かれた計算論的精神医学論文データベースの開発を行っています。

#神経科学 #脳科学 #強化学習 #依存症 #精神医学 #デジタル療法 #VC #科学者 #博士課程



重宗 宏毅

研究室は豊かなリソースの中で、流動性を持ちながら持続的に成長していきます。このリソースを最大限に活かして、より社会と有機的に繋がり、自らも積極的に社会に飛び込んでいく方法を模索しています。

#機械工学 #電気工学 #PhD #研究者 #アカデミア #トビタテ

4. ビジネスのあり方：機能性▶ストーリー性へ

ストーリーや体験の価値が未来社会を創っていく。

従来は、製品の機能性や効率性で付加価値をつけていたが、これからは製品の裏にあるストーリーや製品を使うユーザーの体験が差別化要因となる。「機能性」ではなく、「ストーリー性」が社会を創る時代になる。

機能性



役に立つことが重視され、製品やサービスの価値は、機能性や効率性で図られる。またその価値は金の一軸による絶対評価。

ストーリー性



意味があることが重視され、製品のストーリーやサービスの体験など、共感が価値を呼ぶ。価値評価も、金だけでなくレビューやランキングなど多様な軸へ。



橋本 遥

Open InnovationやDeep Tech投資が活発ですが、より未来を見据えた経営戦略や政策にはアーティストやSF作家を雇う例が既にあります。未来の妄想力・ストーリー力が論理力よりも重用される流れが来ていると実感しています。

#VC #アート思考 #バイオテック #ヘルスケア #0→1の人
#スペキュラティブデザイン



三原 雄一

私は開放特許の有効活用を担当していました。今後は技術説明に加え、お客様に特許を使って何を実現するのかというストーリーに共感してもらうことが重要になります。技術活用による産業振興の一翼を担っていきます。

#知財 #戦略 #ビジネス #特許 #技術移転 #地方創生
#産学官金連携

4. ビジネスのあり方：機能性▶ストーリー性へ

事例

“機能性×ストーリー性”でユーザー目線のサービスを。



iPhone

2007年1月、初代iPhoneが登場。世界初のタッチスクリーンの携帯電話というわけでもなく、消費者もタッチスクリーンで電話をできる小型機器を買っているわけではない。たった一つのボタンとタッチスクリーンというシンプルなインターフェイス（しかもそのボタンも今では無くなった）により、インターネットへの接続と、App Storeから安全に手に入る様々なアプリケーションで道案内やゲームなど、自分がしたいことが説明書なしでできるというユーザー体験が評価されている。

(参考) iPhone - Apple (日本) <https://www.apple.com/jp/iphone/>



RICCI EVERYDAY

「世界中の女性が自らのポテンシャルに気づき、意志と誇りをもって生きる世界を実現」をビジョンに、ウガンダに直営工房を設立して、現地の女性たちとのづくりを行っているファッションブランド。「アフリカ」と聞くと紛争や貧困などネガティブなイメージを持つ方が多くいるが、アフリカはネガティブなことだけでなく素晴らしい魅力にも溢れた場所であり、アフリカの良さを知ってほしい、興味を持ってほしいという想いから、立ち上げられた。30代の旅が好きで、ファッションにこだわりを持って生きる、感度の高い女性がターゲット。

(参考) RICCI EVERYDAY <https://www.riccieveryday.com/>



石井 莉咲

VCとして投資先を検討する際、技術以上にファウンダーがどういう思いで事業を始めたのか、起業に至った経緯と覚悟をみるようにしています。そのストーリー性が弱ければ、茨の道をそう長くは歩めないであろうから。

#スタートアップ #教育 #西海岸 #シリコンバレー #VC



大下 眞央

旅のあり方においても、一時的な娯楽よりも、旅先で出会う地域事業者や地域住人との対話による共感や深い関わりに価値を感じるように変化してきています。業務でも、長期的な価値を創造する教育事業に取り組んでいます。

#イノ旅 #若年層教育 #セレンディピティ #新規事業

5. 社会のあり方：経済大国 ▶ 持続可能な社会へ

人口減少、気候変動、パンデミック・・・目の前には課題が山積。
「持続可能性」が未来社会のキーワード。

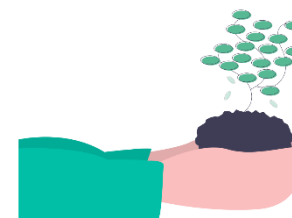
従来は、高度経済成長期・GDP世界第2位・「失われた30年」と経済指標が社会を表現してきたが、これからは気候変動や人口減少の中で、持続可能な社会を築くことが大事。「経済大国」ではなく、「持続可能な社会」が目指したい未来社会像になる。

経済大国



高度経済成長期、Japan as No1、GDP世界第2位、「失われた30年」など経済指標が社会を表現してきた。他国と比べた日本の相対的立ち位置が、目指す指標として示されてきた。

持続可能な社会



グローバル化が進み、経済も環境も思想もボーダーレスに。地球の持続性はすべての未来のベースであり、国を超えた協調が必要。一方国内では人口減少に直面し、持続的な社会の絵姿も描く必要がある。多様性を受容し、ともに一歩踏み出す取組が求められている。



吉開 祐貴

研究開発特化型VCで、科学技術の社会実装に従事。世界には、今まさに対応すべき喫緊の課題が溢れていますが、未来のために、科学技術の社会実装を通じて地球や人類の課題解決を加速させます。これからの時代を生きる当事者として、未来に貢献している、と実感できる人生にしたいです。
#サステイナブル #研究開発 #社会実装 #リアルテック #環境工学
#経営企画 #VC #トピタ



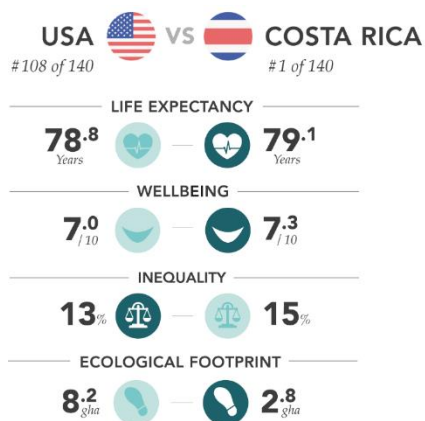
那須野 熏

人工知能で幅広い産業の機械を自動化し、生産現場の様々な手作業を自動化することで、国内の働き手不足を解決すべく起業しました。培った技術を他国でも展開していくことで、人口減少やパンデミックに強く持続可能性が高い社会を世界規模で実現できるのではないかと考えています。
#ビッグデータ解析 #機械学習 #ディープラーニング #社会課題
#ベンチャー #起業家

5. 社会のあり方：経済大国 ▶ 持続可能な社会へ

事例

“経済大国×持続可能な社会”を両立するために。



Costa Rica (コスタリカ)

コスタリカは、1948年に軍を廃止してから、教育、社会福祉、環境保全に予算を分配しており、強い外交・貿易政策によって軍に頼らず友好関係を築いている。現在では、“世界初のカーボンニュートラル”国家、HPI（地球幸福度指数）No.1の国。99%の電力が再生可能エネルギーであり、来年にはカーボンニュートラルの達成を予定している。国土の3割を国立公園として保護し、生物多様性を保護。また、民主主義、サステナビリティ、フェアトレード思想を小さい頃から教育。

(参考) HAPPY PLANET INDEX <http://happyplanetindex.org/>

徳島県 神山町



神山町では、アートインレジデンス、ワークインレジデンス、シェフインレジデンスなどと、世界中からユニークな人を惹きつけ、その地に多様性をもたらしている。「人」をコンテンツにしたクリエイティブな田舎づくりをビジョンとしており、多様な人の知恵が融合する場「せかいのかみやま」づくりや「創造的過疎」による持続可能な地域づくりを目指している。

(参考) Kamiyama's Success in Creative Depopulation, FIELD <http://field-journal.com/issue-8/kamiyamas-success-in-creative-depopulation>

(参考) Kamiyama's "Creative Depopulation" revitalizes declining town, Zenbird <https://zenbird.media/kamiyamas-creative-depopulation-revitalizes-declining-town/>



手塚 茜

多様な価値観が重要になる中、誰もがチャレンジできる社会づくりは必須です。学びたい！という思いを実現できるような学びの機会の拡充や、研究を魅力的かつ身近に感じられる社会の構築に貢献したいです。

#生物学 #神経科学 #科学技術政策



炭谷 翔悟

「急いで行くな1人で行け、遠くへ行くなみんなで行け。」他人を巻き込む力こそ持続可能な社会の実現に向けて最重要であり、私たちは共に発展できるパートナー様と日々手を取り合って企業活動を行なっています。

#人工知能 #産業効率化 #エンジニア #博士課程 #起業家

Chapter
03

未来の実現に向けて
動いていること



未来の実現に向けて - 3つのアプローチ -

「①政策の意思決定プロセス」、「②コミュニティ」、「③プロジェクト」の3つのアプローチで全世代型イノベーション実現に向けて動いていく。



①若手の視点を政策に反映させる

若手ワーキンググループの設立

2020年4月より、経済産業省における審議会（研究開発・イノベーション小委員会）の下に「若手ワーキンググループ」を正式に設置。

イノベーションは未来を創っていくことであり、その未来を創っていくための議論には、「次の30年」をテクノロジーによってリードすべき若手の持っている現場感や中長期的目線による議論が不可欠。

産学の若手研究者や起業家等を委員として、研究開発・イノベーションの支援や環境の在り方について議論する。

②若手のコミュニティを広げる

ELPISの継続

若手ワーキンググループとも密に連携し、更に様々な取組を実施。

- ELPIS全体としての議論
- テーマごとの議論
- プロジェクトの企画立案・実施
- ベテランとの対話
- 他の若手団体との協働

③具体的なプロジェクトを動かす

全世代型イノベーションを実証する 政策・ビジネス案を動かす



詳細は次ページに記載

未来の実現に向けて – 提案するプロジェクトの詳細 –

①政策案：“越境”～トビダセ！研究者～

概要

研究者が社会課題の現場に飛び込み、現地での経験を通じ、社会課題の解決にもつなげる研究に取り組むきっかけを作る。

未来価値

フォルダ型▶ハッシュタグ型
真理探究志向▶社会変化までの研究へ

起こしたい変化

- ①研究者個人
社会課題やニーズと接する機会がない
- ②事業
新規ビジネス探索・立上げ経験がない
- ③企業組織
若手を活かすできていない

- ①社会課題を直接体感し、自分ごととして捉え、研究開発の目的意識を高める
- ②技術をベースに、社内外の経営リソースを活用し、社会課題解決に挑戦できる人・風土を生む
- ③経営陣・管理職・若手が一体として、新規事業創出に取り組むことで、年齢の隔たりがないオープンバージョン型組織へ変革

②ビジネス案：次世代サラリーマン育成プロジェクト

概要

大企業の社員が週1でベンチャー等へ出向する枠組み。ベンチャーとのマッチング、出向期間中のベンチャー・大企業双方の働き方をサポート。

未来価値

フォルダ型▶ハッシュタグ型

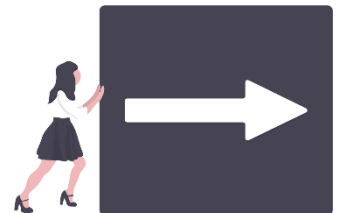
起こしたい変化

- ①個人
同じ企業にずっといてもやや
- ②事業
週5出勤が当たり前
非効率な仕事も多い
- ③企業組織
休日の兼業or100%出向
社内とのシナジー生みにくい
- ④ベンチャー
人手不足

- ①個人
新しい環境で視野が広がる刺激を受ける
- ②事業
働き方の効率化
週4出勤で従来の成果を
- ③企業組織
週1ベンチャー出社する人が社内
に新しい風を吹かせる
- ④ベンチャー
人材不足の解消

Chapter 04

未来への ネクストステップ



今後のコラボレーションに向けて（ELPISへのお問合せ）



- 若手の考えをどうやって取り入れたいかわからない・・・
- うちの若手と議論してほしい。

ベテランの皆様

**ELPISと議論・協働したい経営者・責任者の方は、
ぜひお声がけください！**
(産学官、個人は不問です)

<協働トピックス案>

- 働き方改革、兼業／副業、人材育成、diversity & inclusion、社内起業
- open innovation、産学連携、スタートアップ投資、CVC
- 新規事業開発、海外連携、地方創生、SDGs

<連携までの流れ>

1. 【お問合せ】下記メールにお問い合わせください
2. 【事前調整】メールにて、連携をご希望の背景・解決したい課題・ゴールイメージなどお伺いします
3. 【顔合わせ／プレスト】両者の構想の紹介・プレストを通じて協働できる点を模索
4. 【連携協議】連携に向けた具体的協議を進めていきます



- ELPISメンバーと議論したい！
- うちの若手団体とコラボしたい！

若手の皆様

**ELPISに参加・協働したい方は、
ぜひご連絡ください！**
(産学官、個人は不問です)

<来年度のELPISの活動>

- ELPIS全体としての議論
- テーマごとの議論
- プロジェクトの企画立案・実施
- ベテランとの対話
- 他の若手団体との協働

<参加・協働の流れ>

1. 【お問合せ】下記メールにお問い合わせください
2. <参加の場合> その時点のスケジュールやテーマ等をご連絡します
<協働の場合> 両者のプロジェクトの紹介・プレストを通じて協働できる点を模索

－2019年度 官民若手イノベーション論ELPIS－

未来に向けた議論に参加いただいた方々

アイデアソン in Tokyo

阿部了也 遠藤結万 大西恒彰
沖村和真 加藤宏紀 倉田星哉
坂本和慶 佐久間詩織 澤口早苗
鈴木喜成 高橋鷹山 田中裕紀子
土屋宏斗 中村将 林亮太郎 久翁明子
広川英司 福島光博 廣田達宜
松清広歩 松原大悟 松山綾花
見澤謙佑 宮崎航一 宮本滉大
山口智史 山保太力 渡邊里奈

コアメンバー

赤岩優介 浅川純 五十嵐美樹 石井莉咲
石原瑛暉 井上剛史 池田宗太郎
大下眞央 小野峻佑 粕谷昌宏 加藤郁佳
加藤誠 桑原滉 小島晋之介 佐野仁美
重宗宏毅 周静芳 炭谷翔悟 田中克明
田村洋人 千野歩 手塚茜 那須野薫
夏木瑠璃 西嶋健人 橋本遥 濱本隆太
林志洋 藤井祐汰 三木卓幸 水口佳紀
三原雄一 安井里沙 山下福太郎
吉開祐貴 渡邊なつき

アイデアソン in Osaka

秋月陽乃 伊藤翔矢 伊藤拓也 石塚諒平
岩崎努 上西健太 門脇萌 川岸啓人
木下暢 倉田星哉 小竹和樹 小山晋平
齋藤樹理 坂野晶 澤井伽奈 島林真人
瀬戸ひろえ 高橋慧多 富田信雄
仲栄真礁 長岡利祈 中島秀人 永島康稀
中田理菜 中野邦裕 中村ひかる 中村洋文
西尾祥之 野々村亞慧 野間康平
濱口真慈 春名正樹 堀川心之祐
三石誠 森川悠 山田峻人
山本馨子 余吾由太 Alexander Dimitrov

※五十音順、所属・敬称略

ご協力

梶原将 文部科学省 大臣官房審議官（科学技術・学術政策局担当）
北岡康夫 大阪大学 共創機構産学共創・渉外本部 副本部長
塩瀬隆之 京都大学 総合博物館 准教授
渋澤健 シブサワ・アンド・カンパニー株式会社 代表取締役CEO
橋本道雄 大阪大学 共創機構産学共創・渉外本部 副本部長・教授
濱田格雄 大阪大学 共創機構産学共創・渉外本部
人材育成部門特任講師
平野嘉智 三井不動産株式会社 ソリューションパートナー本部公共法人室
ほか、ご協力いただいた皆様

スペシャルアドバイザー

飯田祐二 経済産業省 産業技術環境局長
渡邊昇治 経済産業省 大臣官房審議官（産業技術環境局担当）
ほか、ご相談させていただいた皆様

開催場所

経済産業省 未来対話ルーム
31VENTURES Clipニホンバシ、VisLab OSAKA

企画・運営・コアメンバー

杉山実優 中舘尚人 水口怜斉 山下慶太郎
（経済産業省）

※五十音順、所属・役職は協力等時点のもの

Proposed by  ELPIS